



# News Letter 夏号

世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なき者の友」の輪  
ニュースレターVol. 61 (2026年6月発行)

## 侵攻4年を越えたウクライナに皆さまの支援を送金しました

今年2月、侵攻から4年を過ぎたウクライナでは6月の今も、過酷な戦争が続いています。「声なきものの友」の輪は3月末、現地の人々のパートナー団体が継続して行う働きを応援しようと、日本の皆さまから祈りのうちに届けられた支援金50万円(4年間の合計額:5,654,258円)を送金しました。侵攻3年を越えたら戦争収束の時期が見えてくるはず、という期待は空しく、ウクライナ全域がミサイルやドローン攻撃の対象にされ続け、残念ながら、戦闘員のみならず、一般市民が亡くなる悲報も続いています。

国内に留まる家族と共に、あるいは国外で家族と離れて暮らす青少年たちの心はどれほどの痛みと不安に満たされていることかと思えます。福島震災支援を機に2012年から相互訪問・連携を始めたFVIのパートナー団体KJMCは、主イエスを信じるロシア語系ユダヤ人とウクライナ語を始めいくつかの言語を母語とするウクライナ人で成り立っています。KJMCでは、侵攻後の攻撃が少し落ち着いた後、学校の休暇ごとに不安に揺れる若者たちがホッとして心から楽しみ、安心と希望を思い出せるような場としての集会を開催してきました。

3月に開催された青年集会には、ウクライナ国籍の若者たち579人が対面とオンラインで参加しました。報告には「戦争による絶え間ない緊張、過酷なストレス、そして先の見えない不安は若者たちの情緒の安定にとって、言葉にできないほどの影響を与えています。ですから、このような集会は回復と支援、霊的再生の貴重な場となっています」とありました。短い報告から、極限状態を今日も過ごしている青少年たち、そして苦しみ悲しみに耐えて歩む大人の支え手の人々の姿が浮かんでくるようでした。どの民族、どの言語の方々も貴く愛されていることを知り、一人ひとりの命が守られる「真の平和」を作りあげるように呼びかけられた者として、祈りと行動をあきらめずに続けようと思わされます。(カタリスト 柳沢)



## 声なきもののチェルノブイリ\*

2016年、FVIのカタリスト3名(柳沢、神田、陣内)でウクライナのキーウを訪れました。東日本大震災後、福島での震災支援活動が続けるなかで出会ったボリス氏の働きを視察するのが目的でした。1986年のチェルノブイリ原発事故から30年を記憶するための記念式典がキーウ各地で行われており、私たちは市内の「チェルノブイリ国立博物館(\*)」を訪れました。博物館には命を賭して事故処理にあたった消防士

が身につけていたガスマスクや致死量の放射線エリアに作業員を運んだ旧ソ連式の装甲車、亡くなった子どもたちの遺品や写真が展示されており、そのいくつかは 30 年経った当時も高い放射線量を放っていました。2014 年のクリミア併合後、東部では「親ロシア派」との戦闘が進行中であることも伺いました。現在に至る侵攻と抵抗が当時から存在していたことを私たちは知り、帰国後、負傷した民兵や市民のための医療キット購入のための支援金を皆様からの献金の中から KJMC に贈ることもしました。

HBO 制作のテレビドラマ『チェルノブイリ』(2019 年)に描かれているように、86 年の重大事故こそがその後の「グラスノスチ (情報公開)」推進と 91 年のソ連邦崩壊の遠因となり、結果としてウクライナは主権国家として独立しました。それから 40 年後の今、2022 年に始まったロシアの「特別軍事作戦」は止むことがなく、チェルノブイリの石棺を覆い放射能の漏出を防ぐために G7 加盟国と EU などの国際社会が出資して 2016 年に完成した「新安全閉じ込め構造物」と呼ばれるシェルターは、ロシアのドローン攻撃により深刻な損傷を受けています (2025 年 2 月の報道 ロシア側は関与を否定)。

「高齢の男が勝手に始め、若者と女と子どもが死ぬのが戦争」と言った人がいます。

誰ひとり加害者にも被害者にもなりたくないですが、剥き出しの暴力が跋扈する世界に現に私たちは不可避的に当事者として埋め込まれていて、被害と加害、正義と悪が単純な二元論では語れない事実に当惑します。なにより、最も苦しむのはいつも辺縁化された人や被造物などの「声なきもの」です。放射能を覆うシェルターに空いた穴のニュース映像を前に、私たちは「聖霊とともに呻く (ローマ 8:26)」ことしかできません。そのように呻きながら、あくまで辺縁化された「声なきもの」への連帯を貫き、小さな愛の種を蒔く実践を続けていきたいと思えます。(カタリスト 陣内)

\*2022 年以降は報道などでもウクライナ語の「チヨルノービリ」と表記するのが一般的ですが、固有名を記憶するために敢えてロシア語表記を残しました。

\*後記:5 月 25 日、この博物館がロシアの大規模攻撃で甚大な被害を受け展示品の 40%が失われたという速報がありました。



KJMC のリハビリコミュニティの畑で種を蒔く青年 2016 年撮影

## その他の活動 (2026年3~5月)

東京武蔵野福音自由教会(日本語部)、カンバーランド中会青年の集い(神奈川)、めぐみ教会、Life コネクト、幡ヶ谷バプテスト教会、弥生台キリスト教会、八王子みなみ野キリスト教会(以上東京)、沖縄ヘブンズチャーチ(祈祷会)、嘉手納アッセンブリー教会・礼拝、世界宣教教会・礼拝、沖縄新生教会・婦人会、那覇バプテスト教会・家族礼拝と第一礼拝、胡屋バプテスト教会・落穂の会(以上沖縄)、豊かな命キリスト教会・礼拝(長野)、MPP コンサート(胡屋バプテスト教会、世界宣教教会、World Christian Mission School、東京武蔵野福音自由教会、弥生台キリスト教会)などで FVI カタリストが奉仕させていただきました(順不同)。

## 働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替: 口座名:「FVI」 口座番号:00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京UFJ銀行の口座もご利用いただけます。お問い合わせください。

\*このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは事務局にお知らせください。

\*国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

●「声なき者の友」の輪 事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776 (神田)